

ハンセン病経験者の隔離と地域社会

藤 井 歩

2001年、熊本地裁でハンセン病快復者勝訴の判決が下った。それにより、急速にハンセン病経験者が背負った歴史や病気についての理解が全国的にされた。

しかし一方で、ホテル宿泊拒否事件や入学拒否事件など、ハンセン病への差別は各所に残る。最近では、「ハンセン病」という名前自体知らない若者も多い。

本論分では、彼らの背負った歴史を、大正時代から書かれ続けている入所者達の詩・短歌・俳句を元に時代ごとに読み解いてゆく。その際、愛知

県、大阪府が出している報告書などを元に、入所者にとってのハンセン病の歴史と生活について、より理解を深めてゆく。

また、筆者が中国のハンセン病快復村へボランティアに行き、2週間程滞在したという経験を元に、中国のハンセン病快復者についても触れる。中国と日本のハンセン病政策と、現在のハンセン病快復者たちの生活の違いを比較・検討してゆくことで、ハンセン病快復者と地域社会の関わり、これから快復者たちに必要なことについて論じてゆく。

「創造都市」の理想と現実 —横浜・BankART1929プロジェクトを中心に—

吉 尾 未 来